

第4回首都圏広域地方計画 有識者懇談会 主なご意見と対応

1. 有識者懇談会報告案に反映した主なご意見

箇所	意見	対応
4. (1)	災害リスク対応は目標ではなく、将来ビジョンに近づくための具体的な措置に過ぎないのではないか？	4. ではリスク対応を起点に将来像を目指す記述とした。
4. (1)	人口減少を好機と考えるなど、希望をもつことができるビジョンを示すことも必要	4. ではリスク対応を起点に将来像を目指す記述とした。
4. (1)	沿岸域では、防災＝食料確保＝自然環境・景観が Win-Win の関係にしていけるべき	左記の項目で、施策の多機能性、分野横断的総合性の観点から事例として記載した。
4. (1)	危機への対応として地域への貢献や、自分以外の経済に貢献しようとする人をサポートすることを記載すべき。	国土づくりの原動力が「国民がわがこととする(国民の共感、参加、協働)」ことを明示
4. (1) 4. (2)1)	国民の共感、参加にとどまらず、行動も促すようにしないとイケない。そのようなニュアンスを強化したほうが良い。	左記の項目で記載した。
4. (2)1)	全国計画の「デジタルとリアルとの融合」という言葉は必要。	デジタルの徹底活用と人間の仕事の尊重とを分離する代わりに、デジタルとリアルとの融合という言葉は左記の項目で記載した。
4. (2)2)ほか	子供のこと、若者に魅力のあることなどヒト重視という話をもっと書くべき。	左記項目に「人間中心」「エッセンシャルワーカー」への敬意といった要素を記載した。
4. (2)2)	首都圏は技術、工業をやっている場所でもあり、エッセンシャルワーカーは大切	左記の項目で記載した。
4. (2)3)	グリーンは CN、緑地、農地を含む概念で、気候変動、ウエルビーイング、食の安全、防災・防衛、健康確保、認知症予防などの多面的な効果があるため、全体のベースとなる概念として「グリーン」を入れるべき。	「4. 施策の基本的考え方」に「グリーン」と明示。加えて「5. 将来像具体化の考え方」: 災害危機、食料・エネルギー危機、リアル空間の上質化のいずれにも「グリーン化」が手段となることを記載した。
5. I (1)の最後	テロや人為災害から重要機能を守るということは必要	要検討。なお、サイバーテロは I. (3)7)③ II 記載した。
5. I (1) 5. II (2)	危機感を共有することで、土地利用や空間を変えていくという書き方にすべき	左記項目の本文中の枕詞に「危機感を共有することにより」を追加で記載した。
5. II (2)	適切規模論、機能混合論、を空間行政へのメッセージとして入れるべき。床の量を増やすことから、質・価値を生み出すことへの転換。	空間行政＝都市計画等、に対するメッセージを記載する箇所を設けた
5. II (2)	郊外の老朽化対策に際して、民間活力を利用して容積率緩和をしていたら、都市圏が大きくなるだけで良くない結果を招く。手段をどうするかも記載する必要がある。	現在インフラが充実しているところ、自治体・民間等、主体的に取り組む者が居るところで再生を図る、という趣旨を記載した。
5. II 1) 6. II 1)	美しくする、ということは行動とも関係。文化は創出していくもの。サブカルでも、地域の人が誇りをもって愛着を感じたらそれは文化である。	左記の項目で、文化を「創造する」という観点で記載した。

箇所	意見	対応
6. I (2)1) 6. III5)	面積が大きい森林をどう活用するかということをクリックアップすべき。CO2削減に役立つので民間資金の導入も重要。	CO2吸着源としての森林・木材の管理・利用という項目を追加した。
6. I (1)4)	復興を迅速化して、元と同じにしてしまっ てはいけない。	左記項目に事前復興に関する項目を追加した。

2. 計画の今後の検討で対応する主なご意見

箇所	意見	対応
3.	目指すべき将来に向けて、少し難しいものを将来像として掲げることが必要。	引き続き検討
3.	変化は加速度的に起こるので、10年役に立つ計画にするためには、皆が納得する内容ではすぐに使えない計画になることに留意。	引き続き検討
3. ③	首都圏は学校が多い。「子供が育つ」という観点をきちんと記載すべき。	現状の記述では弱いため、補強を検討
5. I (1)	「何が起きても首都機能は維持する」一方、リスクへの対応にも選択と集中が必要になることも記載する必要がある。	「施策の選択と集中」というキーワードを記載することを検討
6.	資料2の具体的な施策のイメージのところで、誰がやったら良いのかがわかるように記載すべき	今後、計画の具体化の段階で検討
6. II 4)	ウェルビーイング、産業、といった観点で、国際競争力を高めるために何をするか	記載内容を引き続き検討
6. I (3)3)、4)	人口減少をデジタルで埋め合わせる一方、関係人口や交流人口の交流がより良いモノを生み出す、また、若者が活躍する一方でシニアも活躍する、といった二律背反のことがらを融合していく視点が必要	引き続き検討
8. (1)	目標達成の手段は柔軟にアジャイルな対応ができるようにすべき。計画にそのような枠組みを作ることを盛り込んでおくべき。EBPM という観点から、評価の枠組みを前もって考えておくことが必要。	目標は5. を指標化することを検討している。評価の枠組みは8. (1) に今後記載予定